

編集後記

『ご当地紀行』への寄稿をお願い致します！

私が住んでいる兵庫県の伊丹市では、毎年2月の第二日曜日(今年は、平成30年2月11日)に「白雪蔵まつり」というイベントが行われます。小西酒造(お酒の銘柄:「白雪」)が主催者で、伊丹市・伊丹商工会議所等が協賛して行われる酒をテーマにしたイベントです。その様子的一端は、すでに鴉朋12号の「伊丹:見所・酒処」で紹介致しました。今年は事情により種々のイベントは見ることはできませんでしたが、伊丹商工会議所のブースで販売している伊丹名物の粕汁うどんだけは食べたくて、鏡開きの振る舞い酒の行列には目もくれず、朝一番に妻とその行列に並びました。熱々の粕汁うどんを手にとり、冷えた体が内からさっと暖かくなります。

さて、鴉朋は皆様からの寄稿によって成り立っています。また、皆様より寄稿頂くためには、良き企画をしなければならぬとも思っておりますが、その企画の一つがこの原稿のタイトルにしました「ご当地紀行」です。お住まいの近所・職場の周辺あるいは皆様のふるさと等において良きところ・ガイドブックには載っていない穴場などを紹介して頂く、というものです。

私事ですが、最近琵琶湖の湖東側の長浜から近江八幡にかけて少々興味があり、訪れてみたいなあと思っております。その周辺に詳しい方は、是非是非、珍奇な情報をお寄せ下さい。

鴉朋編集委員長 三宅成司郎 (大学30期)

鴉朋会ニュース「鴉朋」第26号

2018年3月10日

発行: 鴉朋会 (けきほうかい)

〒599-8531 堺市中区学園町1-1

大阪府立大学大学院工学研究科

海洋システム工学分野気付

TEL/FAX 072-254-7461

Email: doso@marine.osakafu-u.ac.jp

<http://www.marine.osakafu-u.ac.jp/~alumni/>

郵便振替口座番号 00970-7-126500

りそな銀行深井支店 普通口座番号 0060109

加入者名「鴉朋会」

KEKIHO

鴉朋 第26号



巻頭言 / 大塚 耕司 1

寄稿

同窓会だより

「長野・善光寺と真田の里」ツアーの紹介について / 山下 眞夫 2

『鴟朋表紙を飾る愉快的な画伯達』 / 三宅 成司郎 5

鴟朋会会費 値上げについて / 岩崎 泰典 7

学内情報

大阪府立大学工学部 鴟朋会 第 63 回理事会報告 8

大阪府立大学工学部 鴟朋会 第 64 回理事会報告 9

物故者連絡 9

編集後記 『ご当地紀行』への寄稿をお願い致します！

／ 三宅 成司郎



◆ 表紙絵 ◆
「春を待つ」
岡田 博雄
(大学 12 期)

◆ 表紙デザイン ◆
平岡 良介
(大学 49 期)

「鴟朋」編集委員 岸 光男 (大学 25 期) 竹田 太樹(大学 30 期) 三宅 成司郎(大学 30 期) 野口 利仁(大学 33 期)
池田 和外(大学 35 期) 有馬 正和(大学 37 期) 新里 英幸(大学 44 期) 中谷 直樹(大学 45 期)
松山 博志(大学 45 期) 奥村 英晃(大学 46 期)

「全国に広げよう鷗朋会の輪」

大学 35 期 大塚耕司

去る 2 月 4 日、東京の明治記念館において開催された、大阪府立大学東京同窓会の総会・新年会に出席する機会を得ました。東京同窓会の総会は毎年この時期に開催されますが、今年は芥川賞作家の柴崎友香氏（総合科学部 1997 年卒）の講演ということもあってか、160 名を超える参加者があり、たいへんな盛況でした。大阪からは辻洋学長をはじめ約 20 名（私も含む）が駆け付け、同窓会間で深い交流のある首都大学東京からも、上野淳学長をはじめ 7 名が参加されました。鷗朋会からは、奥野武俊前学長、大学 10 期佐伯栄一様、堀江忠様、22 期山崎誠様、33 期廣本寿夫様、40 期六城雅敦様、42 期大上圭様、45 期吉田豊様が出席しています。

総会では、今年度の事業報告・会計報告の後、日柳政彦氏（農学部 1967 年卒）から山田昭正氏（経済学部 1968 年卒）への会長交代が承認され、その後大阪府立大学柳嘉夫理事長室長から「府大の今」と題して大学の現状が紹介されました。柴崎友香氏の講演「現在と過去、未来を小説でつなぐこと」では、卒業研究で得た知識や経験が多くの小説のネタに使われているという非常に興味ある内容を、ほんわかしたしゃべり口の中、笑いを交えながら聞くことができました。そして何より六城氏が司会を務めた新年会では、昨年もお会いした先輩方や、教え子でもある後輩たちと、お互いの近況について大いに語り合うことができました。

このような地域同窓会は東京だけではなく、名古屋、岡山、広島にもあり、それぞれの特色を出して盛り上がっています。鷗朋会会員の中にも、岡山同窓会や広島同窓会などに所属されている方は多いと思います。ちなみに昨年の岡山同窓会総会では、池田良徳先生が講演されています。関西在住の方は、中百舌鳥キャンパスで開かれるホームカミングデーなどに気軽に来ていただけますが、離れてお住まいの方は同窓生と会う機会が遠のいているのではないのでしょうか。そのような方には、ぜひ地域同窓会を活用して、鷗朋会の輪を広げていただければ幸甚です。



東京同窓会新年会の集合写真（最前列中央が辻学長、その右隣が柴崎氏、その右 3 人目が奥野前学長）



1 プロローグ

小生は、防衛省技術研究本部・第 5 研究所・所付主任研究官を退官後、明治の日露戦争で活躍した記念艦「みかさ」の資料係長として学芸員の仕事を 4 年間行いました。「みかさ」では、特別企画展を春と秋実施、靖国神社・遊就館や東京江戸博物館等と調整しながら働いてまいりました。その結果、わが国の歴史の基本は江戸時代の文化・技術にあり、その代表は日光・東照宮であると考えています。

幹事を拝命したとき、「東照宮訪問」をセットでお受けいたしました。

振り返ってみれば、江戸時代の寺小屋で指南された「読み書き算盤」は、地理・人名・書簡の作成等、実生活に必要な事柄が教えられていました。わが国の識字率は世界最高水準にあり、ちなみに嘉永年間(1850 年頃)の就学率は 70~86%でした。英国の学問は貴族階級のみ制限され、20~25% (1837 年)、フランス 1.4% (1793 年)、ロシア帝国時代のモスクワ 20% (1850 年) と言われております。

また、江戸時代に来訪した外国人は、わが国の子供たちが、将来はその家の家業を担うことを周りから囑望されていて、子供たちが明るく、笑いが絶えないのは、世界に類のないこととされています。当時の英国では、産業革命を推進するため、エネルギー源石炭が重要で、労働力不足を補うため児童は学問どころか炭鉱夫として駆り出され、深夜まで虐待されていました。

ところで東照宮は、神格化した家康を祀る陵墓と神社群であります。その中の一つ「陽明門」は江戸時代の最高傑作として建てられた世界に類のない芸術的建物であり、またその一隅には、家康の人生訓「人生とは、重い荷を背負って、ゆっくりと山を登るごとし」がひっそりと表記されており、最高の哲学者を祀る場所だと思えます。

しかし、調査すると、第 1 日目に日光へ移動するために 2 時間、第 2 日目に東照宮まで徒歩で移動する 2 時間が足りません。日光は、東京からさらに山奥の関東北部の遠い場所にあります。諦めざるを得ませんでした。

2 東京オリンピック・外国人への「おもてなし」美術館等の改修ラッシュ

訪問先の調査は、暮れから始めましたが、浅草の東京江戸博物館や長野の東山魁夷美術館の大改修がされており休館中でした。善光寺の 100m 隣にある東山魁夷美術館は、せっかくのチャンスでしたが、訪問できませんでした。

また松代市、「真田邸」は訪問の 1 週間前にオープンされたばかりであり、「文武学校」は修理中でしたが、一部公開の状態であり、Enjoy することができました。

観光地の各施設は、オリンピック外国人に向け、改修を行っております。

3 NHK 大河ドラマ「真田丸」が記憶にあるうちに「真田の里」を訪問すること

中百舌鳥の地で青春時代を過ごし、難波、天下茶屋、天王寺界隈をはいかいしながら育った我々にとって、真田幸村「真田丸」と聞いては、ほっておける訳はありません。血肉わき騒ぐものがあります。「平成 28 年 NHK 大河ドラマ「真田丸」」テレビの前に釘づけにされたことでしょう。

さて(写真 1)は、真田の人々が江戸時代に暮らした松代城の近くにある真田邸の玄関です。当時人々が暮らしていた空気をいっぱい吸って帰ってきました。



写真 1

さて、(写真 2)の映像は、良く見慣れたもので、ドラマのイントロ部・登場人物紹介、音楽・服部隆之氏の場面です。しかし、この険しい岩山の映像に NHK は何もコメントしておりません。したが

って、みなさんは何もご存じないと思われます。答えは、幸村の父昌幸の居城「岩櫃（いわびつ）城」が頂上近くにあり、真田家の人々が暮らし、幸村達が生まれ育った場所です。



写真 2

ドラマの第1回放送は、次のように始まります。武田勝頼は自陣の周囲を、織田軍に囲まれ、自分の居城を焼き払い、逃亡生活へ入ります。父昌幸は、自分の居城「岩櫃城」で勝頼の安全を確保することを進言し、一足先に、城に帰陣しました。

勝頼の取り巻きの家来連中は、織田の脅威のあまり主人勝頼を次々に裏切り、放浪の途中で、勝頼は孤立し、自刃して果て、武田家は、滅亡してしまいます。

一方、真田家の家族は、織田軍へ寝返った重臣武将に追っかけられながら父昌幸が「岩櫃城」から救援に駆け付け、救われるという物語で始まりました。

次のエピソードは、真田の居城「上田城」を家康に造らせるお話しです。父昌幸は、現在の群馬・沼田城をめぐる、関東の雄、北条氏との争いの中、徳川が南信濃まで進出してきました。父は、領地が接することになった徳川と勢力争いになることを予測し、徳川と戦うための城「上田城」を徳川に築城させることを考えたのです。その口上は、徳川殿は南信濃まで勢力を伸ばされた今、脅威となるのは、真田の北に位置する越後・上杉氏でありましょう。上杉は徳川の頭を抑えるため必ず攻めてまいります。ついては、上杉に対抗する拠点「上田城」を構築し、家康殿のため貢献したいと申しでたのです。

家康は、大喜びで、真田領内の上田城築城のため材木さらには大工等人夫を提供、支援してくれました。こうして上田城は完成しました。

天正13年(1585年)家康が甲斐に着陣し、徳川傘下の昌幸が支配する現在の群馬の沼田領と北条領の北信濃・佐久郡を交換する徳川・北条の和睦条件履行を昌幸に迫りましたが、昌幸は、沼田領は真田が自力で獲得したものであり、家康から与えられた領地でないことを理由に拒否しました。さらに家康の嫌がる、真田と敵対関係にあった上杉氏と絆を結んでしまいました。その結果、同年7月浜松に帰還した家康は、昌幸の造反を知るところとなり、8月に真田討伐軍を起こし、家臣約7,000兵を上田城へ派遣しました。これが徳川の第1次上田合戦であります。真田方は約1,200兵で、地の利を活かした戦法で、上田城を守ったのです。徳川軍は1,300人ももの戦死者を出し、一方、真田方は40人ほどの犠牲ですみました。

4 今回のツアー写真

我々16期同窓生8名は、平成29年10月15日(日)午後、長野駅に集合しました(写真3)。その後、長野・善光寺へ向かい、山門前で記念撮影をしました(写真4)。



写真 3



写真 4



写真5 川中島古戦場 武田信玄と上杉謙信一騎打ちの像の前にて 2017.10.16 撮影

宇都宮毅

山下真夫

増本彰

白戸直之

吉田海大

名村秀樹

藤木隆太

濱巖

次の日の最初の訪問は、川中島古戦場です。

(写真5; 参加者氏名付(敬称略))

この戦いは、信玄に追われた豪族たちの請願により、信濃へと出兵した越後の上杉謙信は、川中島を合戦場として、11年にわたり5度の戦いが繰り返されました。

この写真の一騎打ちは、戦国史上最大の激戦と言われる永禄4年(1561年)第4次川中島の戦いです。妻女山に布陣していた上杉謙信は、武田が海津城内で野戦の食料準備をしているのを発見、妻女山に夜撃がかかることを察知、少しの兵をダミーとして残し、山をおり、犀川の河原に布陣しました。

武田の主力を妻女山の奇襲攻撃に向かわしたため、不意を突かれた武田は、弟の武田信繁、軍師の山

本勘助らの主要幹部を失うことになります。一方派遣部隊が駆け付けるころには、武田が優勢になり、最後は武田が勝利することになります。

このようにして、この地方は武田の勢力範囲になりました。

この古戦場を後に、真田の里、「松代城、真田宝物館、真田邸及び文武学校」を見学し、真田の歴史と活躍していた人々のオーラを十分堪能いたしました。

最後に、16期同窓会員並びに賜朋会員の皆さま方が、末永く健勝であられます事お祈り申し上げます。(了)

参考文献

- 1 YouTube [公式]真田氏上州の拠点岩櫃(9分)

事務局からのお知らせ

■ 会費納入のお願い

2018年度の会費納入(年会費2,000円)をお願い致します。同封の振込用紙をご利用いただくか、りそな銀行、郵便振替口座にご送金下さい。なお、すでに会費を納入いただいている方には請求書を同封しておりません。御協力のほどよろしくお願い申し上げます。

■ 原稿募集!!

「賜朋」は毎年約2回発行・配布しています。是非ご寄稿下さい!

1. テーマ 自由(ご当地紀行、仕事や趣味、大学時代の思い出、同窓会だより等)
2. 投稿規定 word形式のデータおよび写真、イラストをメールまたは郵送にて
3. 提出期限 随時
4. 提出先 賜朋会事務局(担当:小塚)まで TEL/FAX:072-254-7461
E-mail: doso@marine.osakafu-u.ac.jp



『鴉朋表紙を飾る愉快的な画伯達』



鴉朋編集委員長 三宅成司郎(大学 30 期)

現在、同窓会誌「鴉朋」を 1~2 回/年および同窓生名簿を含めた「会誌」を 1 回/5 年のペースで、皆様にそれら会報をお送りしております。

「鴉朋」の前身の同窓会誌の「ふね」が第 34 号で発刊を終え、その装いを一新し「鴉朋」と名前を変えて平成 13 年 8 月 31 日に新生号が発刊されました。同窓会誌「ふね」と「鴉朋」の内容は、その時の世情や編集委員長の編集方針などが反映されますので、その時々で大きく変わります。しかし、今まで一貫されて引き継がれていることが一つあります。それは、『表紙を同窓生の絵画で飾る!』ということです。これは、特に取り決めたわけではなく、代々の編集委員長に何となく引き継がれているようです。また、その方針は 5 年に一度発行される「会誌」についても同様です。

この文章のタイトル「鴉朋表紙を飾る愉快的な画伯達」は、大切な作品を今まで表紙絵に使用させて頂いたお礼を込めて、また、新たな画伯の参入を願って、鴉朋会の画伯達を紹介したいという思いでつけました。一覧表によりますと、「鴉朋」以降に限ってですが、現在までに 9 名の画伯に表紙を飾って頂いております。提供頂いたそれぞれの絵画を拝見しますと、それぞれに多忙な技術屋でありながら、そのようなすばらしい作品をいつ作り上げるのか、と感心させられる力作ばかりです。

以下、絵画には全くの素人の私の独断と偏見に満ちた画伯の紹介です。認識に大いなる間違いがあるかも知れませんが、ど素人の戯言としてご容赦下さい。

<池島彊画伯 ; 大学 1 期>

鴉朋 15 号でも紹介させて頂きましたが、池島画伯は、学生時代はサッカー部に所属しスポーツに勉学にと青春時代を謳歌されていたとのこと。日本各地の風景画だけでなく、造船所在職中からあちらこちらに海外旅行されて描かれた海外各地

の風景画も多数お預かりしております。それらは、一言で精緻、非常に細やかな線で細部まで丁寧にクリアに描かれています。雅号をお持ちだったように記憶していますが、整理が悪くて出てきません。ご無礼をお許し下さい。

鴉朋・会誌発行号	発行年月日	作者	大学期	タイトル
	—	平岡良介	大学49期	鴉朋表紙デザイン
1	2001.08.31	白草俊也	大学25期	大正区 内港
2	2002.03.10	牧野功治	大学41期	MOSAIC
3	2002.09.30	牧野功治	大学41期	オランダ坂
4	2003.03.28	平岡良介	大学49期	路地
5	2003.10.10	平岡良介	大学49期	小舟
6	2004.03.01	牧野功治	大学41期	浮御堂
7	2005.01.20	白草俊也	大学25期	大阪市消防局 消防艇「なみはや」
会誌第9号	2005.12.01	小嶋真二	大学21期	舟屋夕景
		松本一平	大学43期	会誌表紙デザイン
8	2006.04.01	岡田博雄	大学12期	緑陰の滝<牛滝川、H17.6.7>
9	2006.09.01	岡田博雄	大学12期	散歩道
10	2007.03.25	牧野功治	大学41期	沖縄の海
11	2007.10.31	白草俊也	大学25期	ハット神戸にて
12	2008.04.01	岡田博雄	大学12期	桜咲く水辺
13	2008.10.25	牧野功治	大学41期	子鹿
14	2009.06.30	岡田博雄	大学12期	緑の棚田(堺市内)
15	2010.02.25	池島彊	大学1期	山形県・最上川
16	2010.08.10	白草俊也	大学25期	江戸川ペリにて
会誌第10号	2011.04.10	松野恭顕	大学16期	出港(屋の飛鳥Ⅱ-中突堤)
		松本一平	大学43期	会誌表紙デザイン
17	2011.11.01	池島彊	大学1期	イタリア ベニス
18	2012.05.10	岡田博雄	大学12期	やさしい時間
19	2012.10.20	池島彊	大学1期	湯布院・仏山寺門
20	2013.04.30	白草俊也	大学25期	大島寮から
21	2013.10.31	岡田博雄	大学12期	蘭都彩遊
22	2014.05.10	池島彊	大学1期	ロンドンテームズ河の国会議事堂
23	2015.02.15	白草俊也	大学25期	白浜円月島
会誌第11号	2015.10.20	岡田博雄	大学12期	大山南壁
		松本一平	大学43期	会誌表紙デザイン
24	2016.04.08	山下真夫	大学16期	三浦半島 油壺
25	2017.06.01	池島彊	大学1期	朝の大正池
26	2018.03.10	岡田博雄	大学12期	春を待つ

<岡田博雄画伯 ; 大学 12 期>

岡田画伯は、我々の先生でした。ティモシエンコ著の「Theory of Plates and Shells」を講義頂きました。「英語を訳すのではなく、その内容を説明せよ。」と穏やかな口調ではありましたがピシッと指摘される、緊張感のある講義だったと記憶しております。風景画を得意とされているように思い

ますが、人物や静物のデッサンもされています。心が和む色調で穏やかなほのぼのとした暖かみのある作風が印象的な作品です。

<松野恭顕画伯；大学 16 期>

松野画伯は、「松野平助」の雅号で展覧会を開催されているプロの画伯です。学生時代から絵画やマンガ画きの才を発揮され、笠戸船渠入社後は、社内報に漫画が連載されていたそうです。(社)日造協の安全衛生教育用の漫画が、ネット検索するとヒットします。船への愛情があればこそで、船や回りの風景が忠実に表現された作品です。寄贈頂いた会誌 10 号の作品は、額寸法が「60×70cm」の大作で、飛鳥Ⅱの出航時の迫力がひしひしと伝わってきます。

<山下眞夫画伯；大学 16 期>

鴟朋 24 号で紹介しましたが、山下画伯から額寸法 1.7m×1.4m という巨大作品を寄贈頂きました。寄贈にあたって運搬等のことでメールにてやりとりさせて頂きましたが、そこでの話は、山下画伯の作品の中には造船技術屋として培った知見がしっかりと埋め込まれていることを知ることができる大変興味深いものでした。その作品は大胆で華やか、かつカラフルなものと感じます。鴟朋 24 号の「三浦半島 油壺」は、水面のちょっとした波紋が印象的な作品です。

<小嶋貞二画伯；大学 21 期>

会誌 9 号に使わせて頂いた小嶋画伯の作品「舟屋夕景」は、言わずと知れた伊根の舟屋を題材にされたものだと勝手に思っています。この作品は、一言でいえば「重厚」です。日が暮れてはいくがまだまだほの明るい空と、暗闇が拡がりつつある岸边、そしてその間に置かれた船体の真っ白さが際立っています。それら 3 つのパートの対比が、重厚さを醸し出しているのでしょうか。

<白草俊也画伯；大学 25 期>

白草画伯の画題は、画伯の日常における回りの風景が中心なのかと想像しています。例えば、鴟朋 20 号の「大島寮から」のような、普段いつも窓

から見えている風景などです。表紙絵としてお預かりしていた作品は、スケッチブックに描かれた水彩画だったと思います。それらは、水色・ピンクを基調としたパステル調の軽やかな作品です。

「ふね」の 31 号の表紙はカマキリのスケッチですが、これにはびっくり。

<牧野功治画伯；大学 41 期>

お伺いしたところによりますと、牧野画伯の作品の作り方は、①まずは各地をじっくりと歩く、②気に入った場所や場面を一旦写真に収める、③帰宅後に、それを油絵・パステル画として残す、という方法だとのこと。絵に仕上げるためには、カメラのフレームワークも必要ですね。鴟朋 13 号の「子鹿」に代表される淡い色合いで、少し紗がかかった幻想的な作品が印象的です。

<松本一平画伯；大学 43 期>

松本画伯の作品は、「会誌」のデザインとしていつも使わせて頂いております。それは、ロールシャッハ・テストの対称性を備えたインク染みのような、かつ、無機のデジタルビット的な、作品完成当時は非常に斬新だっただろうと想像できるデザイン画です。次回の「会誌」は、新たなデザイン画をお願いしたいです。

<平岡良介画伯；大学 49 期>

平岡画伯は、鴟朋の表紙の下絵デザインの主(ヌシ)です。そのデザイン画は、たくさんのモズを配した構図ですが、それらはすべて異なる表情を持っているようです。中には、目つきの怖いモズもおりますので、お気を付け下さい。また、鴟朋 4 号「無題」の井戸のポンプの絵は写真ではないか？と見まがうほどの写実的な昭和の路地裏を思い出させる作品でした。

表紙は言うに及ばずですが、今後一層、同窓会誌の内容充実に努めますので、ご支援のほどよろしくお願い致します。鴟朋の表紙に使わせて頂ける作品がありましたら、鴟朋会事務局まで、どしどしご連絡下さい。何卒、よろしくお願い申し上げます。

鷗朋会会費 値上げについて

鷗朋会会長 岩崎泰典（大学 20 期）

平素は鷗朋会活動にご協力頂き有り難うございます。

鷗朋会は、(1)会員相互の親睦を深める場を提供する事、(2)会員と大阪府立大学の近況情報をこまめに発信する事、(3)大阪府立大学海洋システム工学科および学生諸氏を後援する事を目的に活動しております。

鷗朋会は、会員各位の会費と工学部同窓会および全学同窓会である交友会からの支援金を原資として活動しており、「鷗朋」や「ニューズレター」で報告の通り、近年は支援金を含め収入が僅か支出を上回る財務状況で推移しております（本「鷗朋」26号、8頁参照）。しかしながら、工学部同窓会が活動費枯渇により本年3月末を持って解散となり、工学部同窓会からの支援金が無くなります。本年度は、繰越金取り崩しにより会計計画をしておりますが、このままでは次年度以降の財務に問題が生じます。また、交友会支援金も将来予測が不明です。そこで、支援金に頼らない鷗朋会の独立運営を目指して、理事会で議論の末、以下の対策を2019年度より講じることとなりました。

1. 会費の値上げ

平成元年より据え置きの年会費を¥2,000 から ¥3,000 に値上げする。

2. 会費滞納者への処置

10年以上会費滞納者および5年以上会費滞納者で納入実績が無い又は卒業時単年度のみ会費納入者を滞納者とする（計約370名。連絡先が判明している会員の30%強）。滞納者には通知の上、「鷗朋」・「ニューズレター」の郵送を中止し、支出の約1/3を占める通信費（郵送費）の削減を行う。滞納者は、情報遅れが生じますが「鷗朋ホームページ」を利用して同窓会情報の入手をお願いします。

これら施策により、両支援金があった昨年度までに比べて、収支改善が予測されます。この収支改善効果は、会員、特に若手会員へのサービス向上と鷗朋会活動の見える化事業に充てる計画です。具体的には、以下の事業です。

1. 同窓会情報の電子化の推進

以前のアンケートにより一部会員に賛同頂きました「鷗朋」「ニューズレター」の電子配信が、経費上で作業が止まっていますので、これを推進する。

2. 大学院生の会費無料化

鷗朋会会員資格は学部卒業時に生じますが、現在は収入のない大学院生からも会費徴収を行っております。また、近年は大学院進学者数が増え、大学院卒業時に滞納会費支払いに伴う退会申出の傾向があります。このために、大学院生の会費無料化を行う。

3. その他の活動

会費納入の煩雑さを避けるための「自動引き落とし」や、長期会費納入者に対する会費無料化の制定などを行う。

本年度は、これら施策のための準備作業を実施します。来年度より会員各位には会費値上げのご負担を掛けることとなりますが、より良い「鷗朋会」活動のためにご理解とご協力の程を宜しく申し上げます。

大阪府立大学工学部 鷗朋会 第63回理事会報告

- 日時：平成29年7月10日(月) 18:00~19:00
 □場所：大阪府立大学海洋システム工学分野会議室
 □出席者：岩崎会長(大20期)、藤原副会長(大24期)、大塚副会長(大35期)、城野(大8期)、杉山(大12期)、吉久(大13期)、増本(大16期)、西田(大17期)、松本(大19期)、三宅(大30期)、有馬(大37期)、片山(大41期)、中谷(大45期)、新井(大48期)、黒田(大51期)、勝部(大64期)、渡辺(大64期)、草薙(大65期)、松岡(大65期)
 (敬称略、以上19名)
 □資料：鷗朋会 第63回理事会 議事次第
 資料(1) 2016年度会計報告
 資料(2) 編集委員会報告
 資料(3) 校友会理事会報告
 資料(4) 鷗朋会役員名簿

片山理事より開会の辞、岩崎会長より挨拶、議長に大塚副会長が推薦され承認された。

□議事：

(1) 報告事項

a) 2016年度会計報告 (資料(1))

中谷理事より資料に基づき2016年度会計報告と監査報告が行われた。また、2017年3月に行われた「深沢先生退職記念講演会・謝恩会」の会計報告が行われた。残金は鷗朋会に寄付されることとなった。

b) 編集委員会報告 (資料(2))

三宅理事より資料に基づき同窓会誌の発行状況に関する報告があった。『鷗朋』を第25号からネット依頼印刷に切り替えた結果、大幅な費用削減となった。今後、執筆依頼をするにあたり各期できるだけまんべんなく記事依頼するのが良いとの意見があった。

c) 校友会報告 (資料(3))

岩崎会長より資料に基づき平成29年度第1回大阪府立大学校友会 理事会・評議員会について報告があった。ホームカミングディ(11月5日)で「単位同窓会テーブル」の設置と、昨年と同様の単位同窓会発行の会報誌等の経費の支援があり、手続きする必要がある。

d) その他

理事の参加を促すため、ホームカミングディに合わせて理事会を開催してはどうかという意見があった。

(2) 協議事項

a) 新理事推薦に関する件 (資料(4))

大塚副会長より新理事：草薙氏、松岡氏の提案があり承認された。

片山理事より、閉会の辞。以上
 文責 黒田桂菜(大51期)

2016年度 会計報告書			
収入の部		支出の部	
前期繰越	362,551	振込手数料	42,300
		通信費	389,478
同窓会会費	1,242,000	役務費	627,200
理事会会費	16,000	事務費	120,644
雑収入(利息)	21	印刷費	182,369
HP拡充費	30,000	会議費	57,754
活動援助金	100,000	雑費	0
(工学部同窓会より)		HPアルバイト	30,000
同窓会活動支援金	167,000	慶弔費	16,416
(大学校友会より)			
小計	1,555,021	小計	1,466,161
		次期繰越	451,411
合計	1,917,572	総計	1,917,572

大阪府立大学工学部 鷗朋会 第64回理事会報告

- 日時：平成29年11月5日(日) 10:30~11:50
 □場所：大阪府立大学海洋システム工学分野会議室
 □出席者：岩崎会長(大20期)、藤原副会長(大24期)、大塚副会長(大35期)、城野(大8期)、増田(大10期)、杉山(大12期)、増本(大16期)、西田(大17期)、池田(大21期)、有馬(大37期)、坪郷(大39期)、片山(大41期)、中谷(大45期)、新井(大48期)、黒田(大51期)、勝部(大64期)、渡辺(大64期)、松岡(大65期)(敬称略、以上18名)

- 資料： 鷗朋会 第64回理事会 議事次第
 資料(1) 2017年度予算および中間報告書
 資料(2) 編集委員会報告
 資料(3) 鷗朋会 会費に関する提案
 資料(4) 2018年度会計予算案

片山理事より開会の辞、岩崎会長より挨拶、議長に藤原副会長が推薦され承認された。

□議事：

(1) 報告事項

- a) 2017年度会計中間報告 (資料(1))
 中谷理事より資料に基づき 2017年度会計中間報告が行われた。
- b) 編集委員会報告 (資料(2))
 岩崎会長(三宅理事の代理)より資料に基づき同窓会誌の発行状況に関する報告があった。

(2) 協議事項

- a) 2018年度会計予算に関する件(資料(4))
 中谷理事より 2018年度会計予算案が提案され、承認された。工学部同窓会解散に伴い、工学部同窓会からの支援金がなくなる旨の説明があった。また、新井理事より、HP作業の簡易化に伴い、HPアルバイト費の削減案(現行30,000円から10,000円)が提案され、承認された。
- b) 鷗朋会会費に関する提案 (資料(3))
 岩崎会長より鷗朋会の会費の現状に関する説明があり、会費の値上げ(¥3,000/年←¥2,000/年)・会費滞納者への処置に関する提案があり、承認された。次回の理事会で、会費滞納者の認定を行う。収入の安定化や支出削減に関して、下記のような意見があり、引き続き検討することとなった。
- ・校友会同様に在校生から会費を徴収する。
 - ・自動引落しサービスを利用する。
 - ・寄付制度を検討する。
 - ・会誌とニューズレターの送付を卒業生全員と会費納入者で区別する。
 また、編集内容についても下記の意見があり、引き続き編集委員会で検討することとなった。
 - ・在校生からの記事など若い人の興味も引く内容を掲載する。
- c) その他
- ・理事辞退申出をされている炭田理事(造船2期)、岡本理事(大学5期)について、理事退任が承認された。
 - ・住所不明の理事について、片山理事・有馬理事から連絡を取る事となった。
 - ・理事会開催案内は可能な限り mail を利用する。

片山理事より閉会の辞。

以上

文責 黒田桂菜(大51期)

訃報

造船1期 栗山 安衛氏 (平成29年3月)	大学1期 西田 長太郎氏 (平成29年7月15日)
造船1期 柴田 善次氏 (平成28年12月16日)	大学7期 田所 亮三氏 (平成29年5月16日)
造船3期 多田 羅 憲男氏 (平成29年1月)	大学12期 高橋 邦廣氏 (平成29年3月29日)
造船5期 植村 善久氏 (平成28年)	大学19期 福永 泰造氏 (平成28年3月15日)
造船7期 降矢 勢三氏 (平成29年7月20日)	

本会はこの訃報に接し、謹んで哀悼の意を表します。